

新潟県「特別栽培農産物(米) 認証基準」とJA越後さんとう「肥料・農薬 使用基準」

JA越後さんとう管内で生産される米穀は、使用する節減対象農薬・化学肥料（窒素成分）について従来（慣行）の栽培基準よりも「5割削減した栽培」に取り組みます。

新潟県における「地域慣行栽培基準」と「特別栽培農産物(米) 県認証基準」

地域区分	品種 (適用品種)	節減対象農薬使用回数 (成分回数)		化学肥料使用量 (窒素成分 kg/10a 以下)	
		慣行栽培基準	県認証基準	慣行栽培基準	県認証基準
長岡地域	一般(下記以外の品種)	18回	9回以下	6kg	3kg以下
	早生(わたぼうし)	18回	9回以下	8kg	4kg以下

JA:使用肥料の基準 → 「化学肥料使用量(窒素成分) 3kg(わたぼうし 4kg)/10a」の範囲内で栽培します。

使用区分	品目名	使用量の目安	化学合成由来窒素成分 kg/10a	成分(%)				摘要	
				窒素	うち有機	リン酸	加里		
育苗	* 稚苗苗代配合	30g/箱	0.024	4		6	5	20箱/10a	
	ホーネンス培土	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a	
	くみあい液肥2号	10g/箱	0.020	10		4	8	20箱/10a	
	尿素46%	2g/箱	0.019	46				20箱/10a	
	べんとう肥	20g/箱	0.032	8		8	8	20箱/10a	
基肥	* ニューほたる有機基肥オール10	30kg	1.470	10	5.10	10	10		
	ほたる有機基肥	30kg	1.476	10	5.08	14	8		
	有機50スーパー元肥2号	40kg	2.360	12	6.10	7	6		
	有機50早生スーパー元肥2号	40kg	2.360	12	6.10	7	6		
	特裁米専用有機ペースト855	40kg	1.600	8	4.00	5	5		
	有機50ニューフレーザー10	35kg	1.750	10	5.00	4	3		
穂肥	* ほたる有機穂肥	25kg	1.250	10	5.00	4	6		
	さんとう穂肥有機	20kg	2.460	14	1.70	1	14		
	味好2号	20kg	-	7	7.00	2	7		
その他の肥料	有機質肥料	ワールドエースペレット	30kg	-	4	4.00	5	2	
	発酵ケイフン	30kg	-	3.6	3.60	4.2	3.3		
	鶏ちゃんパワー	30kg	-	4	4.00	3	2		
	イセグリーン	60kg	-	3.2	3.20	3.3	2.8	石灰18	
	ペレ炭	20~40kg	-	1.3	1.30	1.0	1.8	Si 26	
	土づくりまたは追肥	シリカリユウ17	60kg	-				Si 17	
	スーパーシリカプレミアム	20kg	-					Si 27	
	PK08	20kg	-			20	18		
	苦土重焼燐	20kg	-			35			
	けい酸加里プレミアム34	20kg	-				20	Si 34	
	塩化加里60	7kg	-				60		
マグコープ	20kg	-			17				
ウォーターシリカ	15kg	-					Si 17		
【例】 * 印を標準使用した場合の化学由来窒素			2.744						

※ 上記の使用基準を参考に、使用する資材のトータル化学合成由来窒素成分が県認証基準(コシヒカリ: 3kg)以下となるよう施肥設計を行って下さい。

JA:使用農薬の基準 → 節減対象農薬使用回数(成分回数): 以下の統一農薬9成分」の範囲内で栽培します。

◆【わたぼうし以外の品種共通使用基準】となります。

使用区分	資材名	用途	使用成分数	摘要
種子消毒	タフブロック	殺菌	-	他の種子消毒殺菌剤との併用不可
育苗	カスミン(粒剤・液剤)	殺菌	-	
育苗箱処理	パディート(箱粒剤) ※1	殺虫	1	床土混和可能
本田除草剤	初期剤	メテオ(1キロ粒剤・フロアブル)	1	一発処理剤との体系処理
	一発処理剤	ウィナー(1キロ粒剤51・Lフロアブル・Lジャンボ)	3	粒剤・フロアブル田植同時可能
	中・後期剤	クリンチャー(1キロ粒剤・EW・ジャンボ) ※2	1	ノビエが発生した場合に使用
中・後期剤	バサグラン(粒剤・液剤) ※2	1	雑草が発生した場合に使用	
本田防除	ルーチン(粒剤) ※1	殺菌	1	いもち病 予防対応
	スタークル(粒剤・液剤10・豆つぶ)	殺虫	1	共同防除(カメムシ等)
			9	
本田防除(緊急防除)	カスミン(液剤)	殺菌	-	いもち病(緊急防除)
	バリダシン(液剤5・粉剤DL)	殺菌	-	紋枯病(緊急防除)
	撒粉ボルドー(粉剤DL)	殺菌	-	稲墨黒穂・稲こうじ(緊急防除)

※1 ツインパディート箱粒剤でも可(床土混和可)です。ただし、ルーチン剤との重複使用は不可となります。

※2 クリンチャーバスマE液剤でも可です。ただし、単剤との重複使用は不可となります。

※ 上記以外の品目を使用した場合、一般米(JA米対象から外れる)の取り扱いとなります。

◆わたぼうしの使用農薬基準

使用区分	資材名	用途	使用成分数	摘要
種子消毒	タフブロック	殺菌	—	他の種子消毒殺菌剤との併用不可
育苗	カスミン（粒剤・液剤）	殺菌	—	
育苗箱処理	パディート（箱粒剤） ※1	殺虫	1	床土混和可能
本田除草剤	初期剤	メテオ（1キロ粒剤・フロアブル）	1	一発処理剤との体系処理
	一発処理剤	ウィナー（1キロ粒剤51・Lフロアブル・Lジャンボ）	3	粒剤・フロアブル田植同時可能
	中・後期剤	スケダチ A（1キロ粒剤） *スケダチも可	1	雑草が発生した場合に使用
本田防除	ルーチン（粒剤） ※1	殺菌	1（必須）	いもち病予防対応
	イモチエース（粒剤） ※2	殺菌	1（必須）	いもち・紋枯・墨黒穂病 防除
	スタークル（粒剤・液剤10・豆つぶ） ※2	殺虫	1	共同防除（カメムシ等）
			9	
本田防除（緊急防除）	カスミン（液剤）	殺菌	—	いもち病（緊急防除）
	バリダシン（液剤5・粉剤DL）	殺菌	—	紋枯病（緊急防除）
	撒粉ボルドー（粉剤DL）	殺菌	—	稲墨黒穂・稲こうじ（緊急防除）

※1 ツインパディート箱粒剤でも可（床土混和も可）です。ただし、ルーチン剤との重複使用は不可となります。

※2 イモチエーススタークル粒剤でも可です。ただし、単剤との重複使用は不可となります。

※ 上記以外の品目を使用した場合、一般米（JA米対象から外れる）の取り扱いとなります。

平成28年産米使用基準の変更点について

① 基肥・穂肥

○ ニューほたる有機基肥オール10

・ほたる有機基肥から有機窒素原料の変更とリン酸成分を減量することにより、コスト削減を図った肥料です。生育期間の肥効は現行品とほぼ同等ですので、現行品と同様の施肥設計として下さい。

【※平成28年産は、既存の在庫と併用する使用基準とします。（H29～：完全切替）】

○ ほたる有機穂肥

・有機成分の主原料（なたね粕→ひまし粕）を切り換えることにより、コスト低減を図りました。トータル窒素量は現行品と同様ですので生育に合わせて施用して下さい。

【※有機原料の切り替えにより、有機由来窒素が5.16%（H27）から
5.00%（H28）で前年差 Δ 0.16%となります。】

② 育苗箱処理剤

○ パディート剤（単剤）

・管内全域で発生密度が高まっているイナゴ被害の軽減とコスト削減を目的に育苗箱処理剤を切り換えます。（H26・H27の現地試験において、幼虫に対する薬剤効果を確認しています。）

○ ツインパディート剤（混合剤）

・箱処理殺虫剤の切り替えにあわせて“殺虫殺菌剤”を切り換えます。床土混和も可能となりますので省力化、コスト削減が図られます。

③ 本田殺菌剤

○ ルーチン剤（単剤）

・育苗箱施用剤の切り替えにあわせて“本田殺菌剤”を切り換えます。軽量化（3kg剤→1kg剤）による省力化とコスト削減が図られます。

* わたぼうしの使用基準（注意点）

- ・墨黒穂防除の予防剤として、H28使用基準の本田防除にはイモチエース剤を継続採用します。
- ・中後期除草剤は1成分剤でヒエ・広葉に効果の期待できる【スケダチA（エース）】（スケダチ成分比：1.5倍）を新規採用します。また、既存の【スケダチ】についても使用可とします。